

昭和22年10月30日、すっきり晴れ上がった秋空の下、第2回国民体育大会秋季大会の開会式が金沢市運動場（富樫町）で天皇陛下のご臨席を得て行われた。

開会式の後、金沢市内小学6年生男女4千名参加によるマスゲーム「若い力」が演じられた。この「若い力」は、大会歌（詩・佐伯孝夫、曲・高田信一）として作られたもので、「♪若い力と感激に…燃えよ若人胸を張れ…」と力強く軽快な調子の曲であった。

私たち体育を研究する者3名は、「若い力」のマスゲームの振り付けと指導を依頼された。当時、戦争に敗れた日本は精神的な打撃が大きく、その上食糧不足で体格体力ともに劣っていた。そこで新しい平和日本の建設と健康で助け合える国民に生まれ変わろうという願いを込め、歌にあわせた振り付けを考えた。

食糧不足で空腹の子どもが多かったが、それにも負けず何回も練習会を実施した。そして迎えた開会式で大観衆を前にして金沢の代表として腕を伸ばし、全身を動かす、希望に満ちた元気いっぱいの「若い力」が演じられたことは、子どもたちとともに私たちにとっても生涯忘れられない感激であった。

50年以上経過した今日も、金沢では運動会や体育大会で「若い力」が演じられており、これを参観できるのはとてもうれしいことである。今後も変わらず金沢市民の若々しい活力を生み出す原動力、宝物としていつまでも演じ伝えていって欲しいものである。



第2回国体での「若い力」マスゲーム



小学校連合体育大会での「若い力」マスゲーム